

【平成 26 年度・前期学期・ミクロ経済学 I・課題 3】

☆ 平成 26 年 6 月 24 日講義開始時締切

- 【問1】 講義で配布されたプリントを参考にして、完全競争市場の仮定 5 つを述べ、それぞれについて、実際の市場などでこれらの仮定が満たされていない場合（反例）を挙げて説明しなさい。（反例は自分で考えてみましょう。）
- 【問2】 次のような場合に市場にどのような変化がおこるか、需要と供給曲線を用いて均衡価格と均衡数量の変化について述べなさい。
- (A) 米の市場で、米の代替財であるパンの価格が下降した。
 - (B) パンの市場で、パンの補完財であるバターの価格が上昇した。
 - (C) 消費者の所得が全般に上昇した。（注：財はすべて正常財とする。）
 - (D) 消費者の人口が増えた
 - (E) 重油を多用する鉄鋼の生産において、原油価格が上昇した。
 - (F) 技術革新により、生産コストが下降した。

- 【問3】 次のようにある財の市場における、需要関数・供給関数が与えられている場合について、後の設問に答えなさい。

$$\text{供給関数: } Q_s = -4 + 2P$$

$$\text{需要関数: } Q_d = 80 - 4P$$

但し、 Q_s は供給量、 Q_d は需要量 P は市場価格を表す。

- (1) 需要関数・供給関数を経済学の慣行に従ってグラフに描きなさい。その際、グラフの縦軸と横軸を正しく定めること。
- (2) この市場が均衡状態にあるとき、均衡価格と均衡数量を求めなさい。（グラフにも書き入れること。）
- (3) 今、この市場に政府が介入し、 $P^{\#} = 12$ ですべての財を取引するように規制した場合、この市場ではどの程度、超過需要もしくは超過供給が存在するか求めなさい。また、実際に取引される数量はいくつになるか？
- (4) (3)の状態のとき、市場では価格圧力(価格プレッシャー)はどちらの方向にかかるか述べなさい。また、どうしてそのように考えるのか、需要者と供給者の意思から説明しなさい。
- (5) (3)の状態における消費者余剰・生産者余剰を求めなさい。